

評価

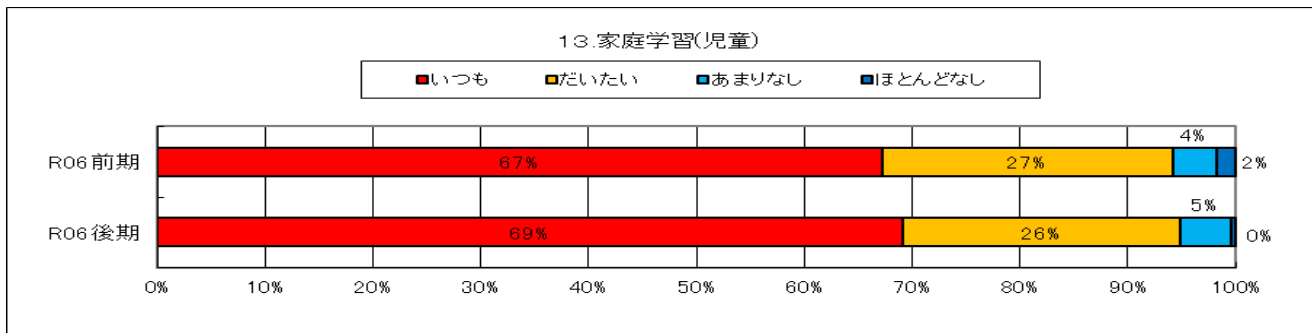
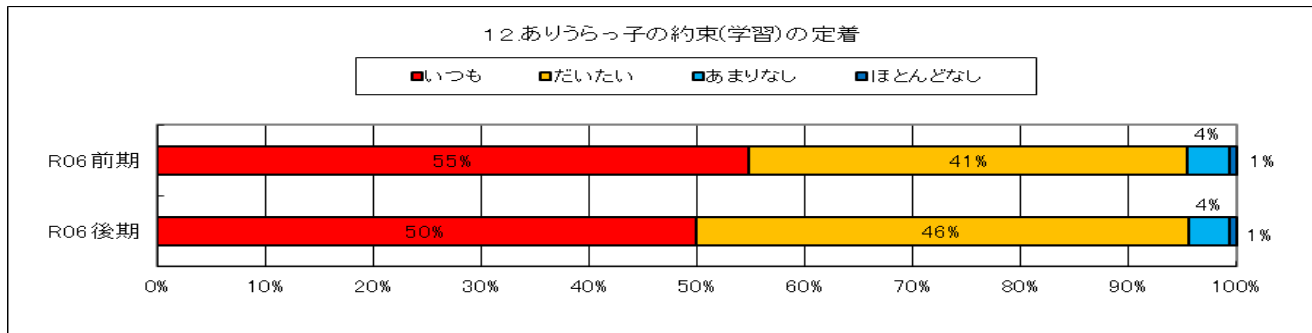
自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

IV 基礎学力

児童の状況		自己評価A	学校関係者評価	外部評価委員のコメント
意欲的に授業に臨ませ、基本的学習習慣を身に付けさせながら学力を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	①適度の学習規律に支えられながら、学ぶことの意義を理解し主体的に学ぶ児童であるよう、引き続き環境作りに努めてほしい。②家庭学習においても、「やれる子とそうでない子」「中身が深い子とそうでない子」など児童の特性と能力には差があるので、今後も家庭と連携し、常に寄り添う姿勢で励ましてほしい。③指導方法の工夫改善は、常に児童の姿を反映させたい。④タブレットの活用においては教育効果が十分期待できる教材研究が求められる。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	①児童の呼びかけで全校共通の学習規律に取り組む姿は素晴らしい。大いに励まし認めてやってほしい。②ノート展示は児童の興味関心度が高まる取り組みといえる。3学期は一つ上の学年のノートを掲示しているようだが、児童には新鮮な刺激となっていることだろう。よい取り組みと感じる。③児童の読み聞かせは素晴らしい取り組みである。読書の習慣形成のために教員の関わりもあればより効果的ではないだろうか。＊学力向上のために、教師集団として取り組むことになっている学習内容に合わせたタブレット活用はどんな状況なのだろうか。教師が児童に能動的に関わる展開を一層期待したい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期（→年度）】 ①4月に「有浦っ子・学習の約束」を配付後、各学級で指導を進めてきた。各学級で課題となる点をあげ、帰りの会等で振り返り、よくなったら、次の課題を解決するように進めてきた。少しずつ身に付いてきていることがアンケート結果から読み取れる。また、今年度は、学びの広場委員会が朝に学習の約束について呼びかけを行っているので、学習の約束を意識して一日過ごすきっかけになっている。 ②家庭学習の取り組みとして、4月に「家庭学習のすすめ」を配付し、指導をおこなってきた。家庭学習のすすめには、家庭学習を取り組む上で大切にしたいポイントをあげ、指導してきた。各学年の廊下には、家庭学習で他の児童の参考になるノートを展示して、子どもたちが興味をもって取り組めるようにしている。 ③算数の評価問題では、今まで「単元評価問題」に取り組む時間を確保することが大変で、どの学年もぎりぎりで行き届くことが多かったが、単元評価問題を学習内容ごとに分割し、授業時間内に取り組むことで、時間の確保ができるだけでなく、学習したその時間にじっくりと問題に取り組むことができる。 （後期の取り組み） ①学習の約束や規律については、定期的に振り返る時間を設けたり、児童の委員会活動と連携し、呼びかけをしたりしていきたい。 ②家庭学習強調週間を設ける。一人勉強のポイントを紹介し、お手本ノートを展示する。児童が展示しているノートを興味をもって見て、自分の一人勉強にいかせるように委員会の活動と連携して進めていきたい。 ③読書強調週間を設け、読書に親しむ時間をとり、お勤めの本を紹介したり、本の森委員会の児童による企画をおこなったりし、読書の楽しさを感じられるように司書と協力して進めていきたい。 ④習熟やレディネスにつながるよう、学習内容に合わせてタブレットを活用した問題練習をより進めていきたい。			
	【年度（→次年度）】 ①学びの広場委員が朝の放送で呼びかけを継続して取り組んだ。また、学びの広場委員が各学級を回り、月曜日に授業でがんばる目標を呼びかけ、金曜日に振り返りをしに来たことで、授業でがんばる目標も意識することができた。また、学習規律について学級の子ども達と担任と振り返ることで、委員会だけでなく、教師も確かめることができたことがよかった。 ②家庭学習強調週間では、一人勉強ノートのよかったところについて委員会の子どもたちが教師とそのノートを書いた本人にインタビューをした。一人勉強ノートのよいポイントを一緒に掲示することで、子どもたちが興味をもって、見る姿が増えた。また、3学期は、一つ上の学年のノートを掲示し、目標となるノートを意識したことで、意欲的に一人勉強に取り組むことができた。 ③読書強調週間では、委員会での呼びかけや目標カードによる取組で、読書をする児童の姿が多く見られた。また、ブックメッセンジャー（委員会児童）が低学年に読み聞かせをする企画も読書に親しむきっかけとなっていた。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 基本的学習習慣	(9)基本的学習習慣の定着	学習のきまりの指導、ノート指導 ハンドサインの活用	3	3
		全校テストの実施と事後指導 家庭学習への取り組み方の指導		
		朝読書の実施、読書運動の実施 読み聞かせの推進		
10 学力向上	(10)基礎学力の定着と向上	習熟の時間の確保と評価問題の工夫	3	3
		諸学力検査等の結果を活用した 学力向上への取組		

※学校教育アンケートから
(児童)



各学年の廊下にお手本ノートを掲示している。友達のノートが掲示されることで、興味をもってノートを見ている。また、各学年に一つ上の学年のノートも掲示し、参考にしてほしいポイントを掲示している。



学習時の広場委員会の児童が、朝学習時に授業でがんばる目標を呼びかけた。また、ポスター掲示もお願いしたりすることで、授業前の子どもたちへの意識付けにつながった。



ブックメッセンジャーによる読み聞かせは、低学年児童が楽しみにして聞いている。



読書強調週間では、目標を達成するために、読書カードにページ数を記録してきた。本の森委員会がいちよう集会で児童に人気の本をクイズに出すなど工夫した発表をすることで、図書室で本を借りようとする姿が多く見られた。